

羅針盤			関係する分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	①懇談会や個別面談、支援会議等で教育活動について伝え、参加者の80%以上から「学校の様子がよくなった」と評価を受けている。	部主事 地域支援 事務部	○学級懇談会を新に設置し教育方針や教育内容について説明を行うことで、個別面談をさらに充実したものにするようにする。 ○学校HPを充実させ、活動の様子がわかるようにしたり、販売会の案内などを掲載した上で、立て看板等を立てたり、回覧板で案内したりする。 ○就学援助や学校徴収金等、事務に係る内容について保護者への適切な情報発信に努める。						
		②交流及び共同学習について、保護者の80%以上から、子どもたちにとって有効な交流だったとの評価を受けている。	交流	○有意義な交流となるように、児童生徒の実態に基づき、事前に学校間で十分な打ち合わせを行い、計画を立て交流を進める。 ○学校間交流での活動の様子が交流で得られた成果や学びについて、保護者が交流を意識できるように、学校通信や学級通信、連絡ノート、HP等で活動の様子を伝える。						
		③授業参観、学校公開等を年間3回以上実施し、参加者の80%以上から満足を得ている。	渉外	○学級通信や連絡帳等で、学習活動の様子がわかるようにしたり、壁下の掲示物などを工夫し日頃の学習の様子がわかるようにする。 ○PTA活動として座談会や施設見学会等を設定し、将来に向けての情報を発信したり、保護者同士の情報共有の場を設定する。						
II 地域の特別支援に関するセンタ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④学校参観や就学前支援について、参考になったと評価をする来校者が80%以上いる。	地域支援	○地域に開かれた学校参観や「ふじっくらふ」などで学校公開をし、来校者が教師と子どもたちの関わる様子や教材を参考に地域で役立つようにする。						
		⑤日常的に行っている指導や支援方法について質問を受けた場合、説明ができる教師が80%以上いる。	地域支援	○普段の授業で教材研究を進めたり、教材や支援内容の有効性を確認し、改善に努めるようにする。						
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑥一人一人の学習状況や実態に応じて、「個別の指導計画」「支援計画」を作成し、それぞれの児童生徒の学びに生かすことができる。(目標値100%)	各学部 (部主事)	○児童生徒の実態を把握し、学習指導要領などと照らし合わせ、児童生徒の一人一人の学びの根拠を説明できる環境を整えていく。						
		⑦保護者は個別の指導計画の目標やその手立て、達成状況に満足している。(目標値100%)	各学部 (部主事)	○個別面談の時間には、児童生徒の学習状況や課題等について丁寧に話し合うことができるようにする。						
		⑧80%以上の教員が、授業における児童生徒の指導目標に応じてICTを活用し、授業実践を行っている。	各学部 (部主事) 研修	○グループ別研修を通して、児童生徒の指導目標に応じたICTの活用場面や活用方法について検討し、その内容を基に授業実践を行う。 ○ICT機器やアプリ等の機能や使い方に関する研修や、ICTを活用した授業実践の事例を共有する機会を設ける。						
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨児童生徒の健康に関する情報を家庭と学校とで互いに連絡し合い行っている支援について保護者の80%以上が満足している。	保健安全	○連絡ノートなどの健康に関する情報を元に、学校では検温や健康観察をまめにし、児童生徒の体調の変化に気づくようにする。 ○食物アレルギーなどのある児童生徒の給食提供に関して、提供内容を確認し、取り違えのないよう、安心安全な給食提供に努める。						
		⑩職員が日々の学校生活の中で学校整備への安全意識をもち、児童生徒に対して安全への配慮ができている。(目標値100%)	保健安全	○職員の安全に対する意識が高まるように、朝会連絡や職員会議などで啓発活動に努める。 ○定期的に緊急事態への対応マニュアルを見直し、対応内容に不足がなかったかなど検討を行う。						
		⑪職員が常にいじめに対する組織的な対応を心掛けており、いじめの未然防止や発生時の早期対応に尽力し、適切な事後処理をすることにより早期解消をはかることができている。(解消率は100%)	生徒指導	○学校独自のいじめ対応マニュアルを作成し、迅速かつ組織的な対応ならびに適切な事後の対処が実践できるよう職員に周知徹底する。 ○職員研修などを通して、いじめに関する法令に沿った「いじめの定義や内容」、「未然防止方法や早期発見方法」、「早期対応に関わる組織的・継続的な取組方法」など、職員がいじめに対応する際の共通認識を周知徹底する。						
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑫児童生徒の各学部卒業後の姿や社会人となった姿を見通して、身につけたい力・高めたい力についての育成が行われていると保護者の80%以上が感じている。	進路指導	○キャリアパスポートを活用して、目標を明確化し、その達成に向けて主体的に取り組むことができるようにして、自己調整力や問題解決能力を高められるようにする。 ○学校や職場、施設見学会を児童生徒の実態に応じて企画し、学校卒業後の生活のイメージが持てるようにする。						
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路指導	○進路学習・相談会では、児童生徒や保護者が関わる関係機関と連携し開催し、ネットワークを構築できるようにする。 ○調査票や各種検査情報を参考に、環境因子や個人因子を考慮の上、情報提供を行う。						